

報 告

21世紀に向けて首都圏の都市機能を確保するための環状道路のあり方をテーマとして、各分野の専門家である6人のパネリストおよびNHK解説委員の平野次郎氏の司会でシンポジウムを行った時の概要である。

21世紀のネットワークを考える ——都市の再生と高速道路——

平成9年3月12日、経団連ホールにおいて、21世紀に向けて首都圏の都市機能を確保するための環状道路整備のあり方をテーマとして、シンポジウムが開催されたので、ここにその概要を紹介します。

シンポジウムでは、日本の環状道路整備の現状分析、将来の道路ネットワークのあり方、さらにその整備の進め方について、NHK解説委員平野次郎氏の司会の下、各分野の専門家である6人のパネリストの方々にディスカッションをしていただきました。また今回のシンポジウムに先立ち海外の都市圏と環状道路の現状を把握する目的で、バンコク、ロンドン、ワシントンD.C.、パリの各都市の現地取材を、司会者の平野次郎氏、パネリストの森地茂氏により行いました。

パネリスト

日下 公人氏	ソフト化経済センター理事長
黒川 紀章氏	建築家
中条 潮氏	慶應義塾大学教授
森地 茂氏	東京大学工学部教授
山谷えり子氏	サンケイリビング新聞編集長
ピエール・コブフ氏	フランス新都市協力事業団日本代表

総合司会進行

平野 次郎氏	N H K 解説委員
若月 純子氏	キャスター

中 略

平野 ありがとうございました。私は、このディスカッションの着地点というのは、3環状・9放射構想という点にいき着くのではないかと思っていましたら、それをはるかに飛び越しまして、もっと先の話になりました。

今までの議論を踏まえると、21世紀のある時点では、アジア大陸に大きな高速道路のネットワークが張りめぐらされて、朝鮮半島、それから日本に通じるバイパスもできて、ひとつのアジアネットワークというものができる時代が来ると思います。その時に自分達が持っている高速道路のネットワークは果たしてこれでいいのか、十分なのか、世界に誇れるのかという議論を行わなければならない時代が訪れるということを、今回のシンポジウムを通して感じました。